



盆栽庭園では、前後左右から鑑賞できる。

■大熊館長おすすめの本！
 「盆栽 愈しの小宇宙」
 (丸島秀夫著)
 2003 新潮社
 これは盆栽にこれから親しもうという人向け。
 盆栽を多少知っているという人には、淡交社
 ムックの「盆栽入門」(淡交社 2002)。監修者
 の竹山浩さんは盆栽村の園主のひとり。そ

まずあげてくれたのが
 「盆栽 愈しの小宇宙」
 (丸島秀夫著)
 2003 新潮社だ。
 最後に大熊館長から図書館を利用するみな
 さんに向けて、盆栽の本でおすすめのものを
 紹介してもらつた。

さいたま市大宮盆栽美術館	
開館時間	埼玉県さいたま市北区土呂町2-24-3 TEL: 048-780-12091 3月~10月 午前9時~午後1時30分 11月~2月 午前9時~午後1時 木曜日(国民の祝日をのぞく)、年末年始、展示替え期間
休館日	一般300円(200円) ※()内は20名以上の団体料金 JR宇都宮線「土呂駅」下車 東口より徒歩5分 または、東武野田線「大宮公園駅」下車 徒歩10分
観覧料	アクセス 駐車場有 44台

ほか、ギャラリートークや、夏休みの子ども向けのイベントなど、展示以外の活動もある。「新しいものを見るのが好きなんですよ」という大熊館長。ぜひ美術館に足をはこんで、盆栽の伝統と新しさに接してみてください。

盆栽園では別のある苦労もあるのでは?「屋外」で展示しているので、風や雨は時間でとにかく避けられています。風向きによっては盆栽の向きを変えたりもします。だから台風などでは観覧も中止します」とのこと。また、盆栽は太陽光が必要なので「室内は5日が限度。だから毎日が展示替え状態。こんなに展示替えをやっている美術館はないですよね」つまり、毎日ちがう展示に出会えるということだ。盆栽だけでなく「美術館も生きている」ことを教えてくれた。

盆栽園と連携して盆栽村全体を「工」「三ユージアム」としたり、同じ北区の鉄道博物館と連携したりといったアイディアも。盆栽美術館は、研究や教育の場であるだけでなく、地区の活性化の拠点でもあるのだ。

■出足好調な盆栽美術館
 「一番知りたいのは、木曜日が休館日だということです」。大熊館長は「関東近県や全国的には、まだ知られていないんです」と楽観はしていない。「だから、知つていただければ来館者になる可能性のある方々がたくさんいるということ」と話す。

■「休館日は木曜日」の理由
 「盆栽の手入れや水やりをするために合わせたからです。だから地区全体を見学してほしい」。

さいたま市大宮盆栽美術館は、旧高木盆栽美術館の所蔵品を引き継ぎ、関連する絵画や歴史資料などを収集している。公立としては世界初の盆栽専門の美術館。

盆栽というと「和」のイメージだが、お会いした大熊館長はひげをたくわえたなかなかダンディな方。観覧者も年配の方が多いのかと思ったが、雑誌でも紹介されて「若い方も多いですよ」とのこと。入館者数は、年間目標の5万人に対して、5月末までに2万人を超えた。そんな出足の好調さにもかかわらず、大熊館長は「関東近県や全国的には、まだ知られていないんです」と樂観はしていない。「だから、知つていただければ来館者になる可能性のある方々がたくさんいるということ」と話す。

「産業観光はいま開拓すべき分野。たとえば、観覧者の目の前で盆栽の手入れや水やりをする場で質問があがつたりして、即席のレクチャーになる。そうした現場をみていただきたい。そして実際に盆栽をはじめてみたいという時には、盆栽園に行つていただきたい。そうしたことが、伝統産業の活性化になると思うのです」。

盆栽園と連携して盆栽村全体を「工」「三ユージアム」としたり、同じ北区の鉄道博物館と連携したりといったアイディアも。盆栽美術館は、研究や教育の場であるだけでなく、地区の活性化の拠点でもあるのだ。

■「毎日が展示替え」の美術館
 して大熊館長も論考をよせている。「盆栽大事典 1~3」(同朋舎 1983)は、各項目詳しく解説している盆栽の事典。「すでに盆栽をやっている人」マークには必携の本ですね」とのことだが、かなり値がはるので、ご利用はどうぞ図書館で。そして、「盆栽村でいえば、『大宮盆栽村クロニクル』(宮田一也著、アーカイブス出版 2008)をあげてもらつた。『歴史性や文化性を知ろうとするなら読んでいただいていい本です』。盆栽村の起こりから第一次大戦後の復興までを、小説のように読むことができる。鑑賞する側からの入門書だとNHKの「美の壺」シリーズ(日本放送出版協会)の「盆栽」(2006)や「水石」(2009)があります。「写真を通じても眞髓が伝わってきます。これはいい本です」と大熊館長も太鼓判。

しかし、盆栽は生きている。絵画や彫刻を示す限り再現。そして庄巻の屋外の盆栽園では盆栽を360度から鑑賞できる。「空間の中でどうやってよさをひきだすか、それは絵画や彫刻や工芸も同じです。現代の空間の中でもう美しくみえるかという提案もしたい」といふ。

おすすめしてもらつた本はさいたま市の図書館で所蔵しているので、ぜひ図書館で盆栽の世界に触れてみてください。

さいたま市大宮盆栽美術館
 埼玉県さいたま市北区土呂町2-24-3
 TEL: 048-780-12091
 開館時間
 3月~10月 午前9時~午後1時30分
 11月~2月 午前9時~午後1時
 木曜日(国民の祝日をのぞく)、年末年始、展示替え期間
 休館日
 一般300円(200円)
 ※()内は20名以上の団体料金
 JR宇都宮線「土呂駅」下車 東口より徒歩5分 または、東武野田線「大宮公園駅」下車 徒歩10分

■出足好調な盆栽美術館
 「一番知りたいのは、木曜日が休館日だということです」。大熊館長は「関東近県や全国的には、まだ知られていないんです」と樂観はしていない。「だから、知つていただければ来館者になる可能性のある方々がたくさんいるということ」と話す。

■「休館日は木曜日」の理由
 「盆栽の手入れや水やりをするために合わせたからです。だから地区全体を見学してほしい」。

さいたま市大宮盆栽美術館は、旧高木盆栽美術館の所蔵品を引き継ぎ、関連する絵画や歴史資料などを収集している。公立としては世界初の盆栽専門の美術館。

盆栽というと「和」のイメージだが、お会いした大熊館長はひげをたくわえたなかなかダンディな方。観覧者も年配の方が多いのかと思ったが、雑誌でも紹介されて「若い方も多いですよ」とのこと。入館者数は、年間目標の5万人に対して、5月末までに2万人を超えた。そんな出足の好調さにもかかわらず、大熊館長は「関東近県や全国的には、まだ知られていないんです」と樂観はしていない。「だから、知つていただければ来館者になる可能性のある方々がたくさんいるということ」と話す。

■「産業観光はいま開拓すべき分野。たとえば、観覧者の目の前で盆栽の手入れや水やりをする場で質問があがつたりして、即席のレクチャーになる。そうした現場をみていただきたい。そして実際に盆栽をはじめてみたいという時には、盆栽園に行つていただきたい。そうしたことが、伝統産業の活性化になると思うのです」。

盆栽園と連携して盆栽村全体を「工」「三ユージアム」としたり、同じ北区の鉄道博物館と連携したりといったアイディアも。盆栽美術館は、研究や教育の場であるだけでなく、地区の活性化の拠点でもあるのだ。

■「毎日が展示替え」の美術館
 して大熊館長も論考をよせている。「盆栽大事典 1~3」(同朋舎 1983)は、各項目詳しく解説している盆栽の事典。「すでに盆栽をやっている人」マークには必携の本ですね」とのことだが、かなり値がはるので、ご利用はどうぞ図書館で。そして、「盆栽村でいえば、『大宮盆栽村クロニクル』(宮田一也著、アーカイブス出版 2008)をあげてもらつた。『歴史性や文化性を知ろうとするなら読んでいただいていい本です』。盆栽村の起こりから第一次大戦後の復興までを、小説のように読むことができる。鑑賞する側からの入門書だとNHKの「美の壺」シリーズ(日本放送出版協会)の「盆栽」(2006)や「水石」(2009)があります。「写真を通じても眞髓が伝わってきます。これはいい本です」と大熊館長も太鼓判。

しかし、盆栽は生きている。絵画や彫刻を示す限り再現。そして庄巻の屋外の盆栽園では盆栽を360度から鑑賞できる。「空間の中でどうやってよさをひきだすか、それは絵画や彫刻や工芸も同じです。現代の空間の中でもう美しくみえるかという提案もしたい」といふ。

おすすめしてもらつた本はさいたま市の図書館で所蔵しているので、ぜひ図書館で盆栽の世界に触れてみてください。

さいたま市大宮盆栽美術館
 埼玉県さいたま市北区土呂町2-24-3
 TEL: 048-780-12091
 開館時間
 3月~10月 午前9時~午後1時30分
 11月~2月 午前9時~午後1時
 木曜日(国民の祝日をのぞく)、年末年始、展示替え期間
 休館日
 一般300円(200円)
 ※()内は20名以上の団体料金
 JR宇都宮線「土呂駅」下車 東口より徒歩5分 または、東武野田線「大宮公園駅」下車 徒歩10分

■出足好調な盆栽美術館
 「一番知りたいのは、木曜日が休館日だということです」。大熊館長は「関東近県や全国的には、まだ知られていないんです」と樂観はしていない。「だから、知つていただければ来館者になる可能性のある方々がたくさんいるということ」と話す。

■「休館日は木曜日」の理由
 「盆栽の手入れや水やりをするために合わせたからです。だから地区全体を見学してほしい」。

さいたま市大宮盆栽美術館は、旧高木盆栽美術館の所蔵品を引き継ぎ、関連する絵画や歴史資料などを収集している。公立としては世界初の盆栽専門の美術館。

盆栽というと「和」のイメージだが、お会いした大熊館長はひげをたくわえたなかなかダンディな方。観覧者も年配の方が多いのかと思ったが、雑誌でも紹介されて「若い方も多いですよ」とのこと。入館者数は、年間目標の5万人に対して、5月末までに2万人を超えた。そんな出足の好調さにもかかわらず、大熊館長は「関東近県や全国的には、まだ知られていないんです」と樂観はしていない。「だから、知つていただければ来館者になる可能性のある方々がたくさんいるということ」と話す。

■「産業観光はいま開拓すべき分野。たとえば、観覧者の目の前で盆栽の手入れや水やりをする場で質問があがつたりして、即席のレクチャーになる。そうした現場をみていただきたい。そして実際に盆栽をはじめてみたいという時には、盆栽園に行つていただきたい。そうしたことが、伝統産業の活性化になると思うのです」。

盆栽園と連携して盆栽村全体を「工」「三ユージアム」としたり、同じ北区の鉄道博物館と連携したりといったアイディアも。盆栽美術館は、研究や教育の場であるだけでなく、地区の活性化の拠点でもあるのだ。

■「毎日が展示替え」の美術館
 して大熊館長も論考をよせている。「盆栽大事典 1~3」(同朋舎 1983)は、各項目詳しく解説している盆栽の事典。「すでに盆栽をやっている人」マークには必携の本ですね」とのことだが、かなり値がはるので、ご利用はどうぞ図書館で。そして、「盆栽村でいえば、『大宮盆栽村クロニクル』(宮田一也著、アーカイブス出版 2008)をあげてもらつた。『歴史性や文化性を知ろうとするなら読んでいただいていい本です』。盆栽村の起こりから第一次大戦後の復興までを、小説のように読むことができる。鑑賞する側からの入門書だとNHKの「美の壺」シリーズ(日本放送出版協会)の「盆栽」(2006)や「水石」(2009)があります。「写真を通じても眞髓が伝わってきます。これはいい本です」と大熊館長も太鼓判。

しかし、盆栽は生きている。絵画や彫刻を示す限り再現。そして庄巻の屋外の盆栽園では盆栽を360度から鑑賞できる。「空間の中でどうやってよさをひきだすか、それは絵画や彫刻や工芸も同じです。現代の空間の中でもう美しくみえるかという提案もしたい」といふ。

おすすめしてもらつた本はさいたま市の図書館で所蔵しているので、ぜひ図書館で盆栽の世界に触れてみてください。

さいたま市大宮盆栽美術館
 埼玉県さいたま市北区土呂町2-24-3
 TEL: 048-780-12091
 開館時間
 3月~10月 午前9時~午後1時30分
 11月~2月 午前9時~午後1時
 木曜日(国民の祝日をのぞく)、年末年始、展示替え期間
 休館日
 一般300円(200円)
 ※()内は20名以上の団体料金
 JR宇都宮線「土呂駅」下車 東口より徒歩5分 または、東武野田線「大宮公園駅」下車 徒歩10分

■出足好調な盆栽美術館
 「一番知りたいのは、木曜日が休館日だということです」。大熊館長は「関東近県や全国的には、まだ知られていないんです」と樂観はしていない。「だから、知つていただければ来館者になる可能性のある方々がたくさんいるということ」と話す。

■「休館日は木曜日」の理由
 「盆栽の手入れや水やりをするために合わせたからです。だから地区全体を見学してほしい」。

さいたま市大宮盆栽美術館は、旧高木盆栽美術館の所蔵品を引き継ぎ、関連する絵画や歴史資料などを収集している。公立としては世界初の盆栽専門の美術館。

盆栽というと「和」のイメージだが、お会いした大熊館長はひげをたくわえたなかなかダンディな方。観覧者も年配の方が多いのかと思ったが、雑誌でも紹介されて「若い方も多いですよ」とのこと。入館者数は、年間目標の5万人に対して、5月末までに2万人を超えた。そんな出足の好調さにもかかわらず、大熊館長は「関東近県や全国的には、まだ知られていないんです」と樂観はしていない。「だから、知つていただければ来館者になる可能性のある方々がたくさんいるということ」と話す。

■「産業観光はいま開拓すべき分野。たとえば、観覧者の目の前で盆栽の手入れや水やりをする場で質問があがつたりして、即席のレクチャーになる。そうした現場をみていただきたい。そして実際に盆栽をはじめてみたいという時には、盆栽園に行つていただきたい。そうしたことが、伝統産業の活性化になると思うのです」。

盆栽園と連携して盆栽村全体を「工」「三ユージアム」としたり、同じ北区の鉄道博物館と連携したりといったアイディアも。盆栽美術館は、研究や教育の場であるだけでなく、地区の活性化の拠点でもあるのだ。

■「毎日が展示替え」の美術館
 して大熊館長も論考をよせている。「盆栽大事典 1~3」(同朋舎 1983)は、各項目詳しく解説している盆栽の事典。「すでに盆栽をやっている人」マークには必携の本ですね」とのことだが、かなり値がはるので、ご利用はどうぞ図書館で。そして、「盆栽村でいえば、『大宮盆栽村クロニクル』(宮田一也著、アーカイブス出版 2008)をあげてもらつた。『歴史性や文化性を知ろうとするなら読んでいただいていい本です』。盆栽村の起こりから第一次大戦後の復興までを、小説のように読むことができる。鑑賞する側からの入門書だとNHKの「美の壺」シリーズ(日本放送出版協会)の「盆栽」(2006)や「水石」(2009)があります。「写真を通じても眞髓が伝わってきます。これはいい本です」と大熊館長も太鼓判。

しかし、盆栽は生きている。絵画や彫刻を示す限り再現。そして庄巻の屋外の盆栽園では盆栽を360度から鑑賞できる。「空間の中でどうやってよさをひきだすか、それは絵画や彫刻や工芸も同じです。現代の空間の中でもう美しくみえるかという提案もしたい」といふ。

おすすめしてもらつた本はさいたま市の図書館で所蔵しているので、ぜひ図書館で盆栽の世界に触れてみてください。

さいたま市大宮盆栽美術館
 埼玉県さいたま市北区土呂町2-24-3
 TEL: 048-780-12091
 開館時間
 3月~10月 午前9時~午後1時30分
 11月~2月 午前9時~午後1時
 木曜日(国民の祝日をのぞく)、年末年始、展示替え期間
 休館日
 一般300円(200円)
 ※()内は20名以上の団体料金
 JR宇都宮線「土呂駅」下車 東口より徒歩5分 または、東武野田線「大宮公園駅」下車 徒歩10分

■出足好調な盆栽美術館
 「一番知りたいのは、木曜日が休館日だということです」。大熊館長は「関東近県や全国的には、まだ知られていないんです」と樂観はしていない。「だから、知つていただければ来館者になる可能性のある方々がたくさんいるということ」と話す。

■「休館日は木曜日」の理由
 「盆栽の手入れや水やりをするために合わせたからです。だから地区全体を見学してほしい」。

さいたま市大宮盆栽美術館は、旧高木盆栽美術館の所蔵品を引き継ぎ、関連する絵画や歴史資料などを収集している。公立としては世界初の盆栽専門の美術館。

盆栽というと「和」のイメージだが、お会いした大熊館長はひげをたくわえたなかなかダンディな方。観覧者も年配の方が多いのかと思ったが、雑誌でも紹介されて「若い方も多いですよ」とのこと。入館者数は、年間目標の5万人に対して、5月末までに2万人を超えた。そんな出足の好調さにもかかわらず、大熊館長は「関東近県や全国的には、まだ知られていないんです」と樂観はしていない。「だから、知つていただければ来館者になる可能性のある方々がたくさんいるということ」と話す。

■「産業観光はいま開拓すべき分野。たとえば、観覧者の目の前で盆栽の手入れや